

【添付書類】 事業内容、事業の成果に関する写真
事業内容に関する写真

: 農家にて回転蒾（蚕具）の取り外し及び搬送

長野県辰野町（800組）、群馬県富岡市（700組）、山梨県南巨摩群富士川町（50組）において回転蒾を分解し、長野県辰野町の倉庫内に搬送した。

: 機織り機の解体、整備及び搬送

茨城県結城市の機織り会社にて機織り機3台を解体し、長野県辰野町の倉庫に搬送した。



: 回転蒾の修理、調整

回転蒾の稼働具合を確認すると共に各部位の調整を行った。

回転枠を一個、一個を入念に確認しながら、不具合なものについては可能な限り修理を施し、一個でも多く現地に供与できるようにした。



: 回転蒾の袋詰め

回転蒾の輸送中や荷積みによる損傷を防ぐために蒾の袋詰めは慎重に行わなければならない。

【添付書類】 事業内容、事業の成果に関する写真



：上記の蚕具類及び機織り機の現地への輸送
整備された中古養蚕具等は長野県辰野町集積場にて20フィートコンテナ3台に積み込まれ名古屋港を經由して現地プロジェクトサイト（ネグロス島）に輸送された。



：中古養蚕具が現地に到着
12月20日に横浜港を出発した中古養蚕具等は翌年の1月3日に国際港のセブ島に到着。途上国故か通関手続きに日数を要し、ネグロス島のプロジェクトサイト、への到着は1月22日になった。幸い、コンテナ内の蚕具類は損傷することもなく、無事届いた。



：積載物の搬入
積荷の蚕具等は約半日をかけてオイスカバゴ研修センター職員及び研修生等によって、一旦コンテナから倉庫に搬入された。3つのコンテナには約1550組（回転まぶしの枠部分とまぶし自体、回転まぶしを吊り下げるホック）と機織り機3台が積載されていた。

【添付書類】 事業内容、事業の成果に関する写真



：受け渡し式

2月26日には日本国駐比大使館より一等書記官（左端）が来島し、中古養蚕具の受け渡し式がおこなわれた。西ネグロス州知事（右から2番目）、養蚕組合代表（右端）、プロジェクトマネージャーのほかネグロス養蚕事業関係者66名が出席して、州政府を代表して知事並びに養蚕普及員代表より感謝の言葉が述べられた。



：参加者の集合写真。

受け渡し式の中で、2013年の生繭生産量上位15名を表彰し、西ネグロス州知事より認定証を授与した。モデル農家として認定された養蚕農家には、新規養蚕農家への回転まぶしの取り扱い方法及び管理方法を養蚕普及員と共に指導するように要請した。



：カラトラバ地区への配布

カラトラバ地区ティグボン村の新規養蚕農家に対して、一戸当たり8～15組の回転まぶしを配布した。回転まぶし導入以前同地区では、灌木やココナツの葉などを利用して上簇作業を行っていたが、奇形繭や玉繭が多く、管理作業も大変だったのが、回転まぶしの導入によって効率的に安定した生繭生産を行えるようになった。

【添付書類】 事業内容、事業の成果に関する写真



：サンカルロス市ナトヤイ地区への配布

サンカルロス市ナトヤイ地区で 2013・2014 年から新たに養蚕を始めた約 20 件の養蚕農家に 8～12 組の回転まぶしを配布した。同地区は、道中が非常に悪い道路状況にあり、途中で車が故障するなどのトラブルもあったが、回転まぶしの導入によって良質の繭が生産されるようになったことで、これまで養蚕に興味のなかった周辺住民も養蚕に対する期待を高めている。



：マビナイ地区 養蚕技術セミナー

マビナイ地区の既存養蚕農家に対して回転まぶしの正しい使用方法及び管理に関するセミナーを開催した。参加者の多くは以前から回転まぶしを使用している者もいるが、水に濡れたり、鼠に食べられたりなど徹底した管理が出来ていない農家が複数いたことから、上簇作業の効率化と清潔さを高めるためのセミナーを開催した。セミナー参加者は上簇作業に対する正しい理解を経たことで、セミナー後には様々な技術的質問があり、普及員と専門家が応答した。



：サンカルロス市ケソン地区 養蚕技術セミナー

サンカルロス市ケソン地区の新規養蚕農家に対して回転まぶしの正しい使用方法及び管理に関するセミナーを開催した。

壮蚕飼育から上簇を経て繭の収穫に至るまでの流れを、パワーポイントを使って説明し、実際に回転まぶしの管理方法や使用方法を説明した。同地区では毎回毎年良質の繭を生産している農家もいるが、新規養蚕農家の中には繭の規格が一定にそろわないなどの問題があったが、回転まぶしの仕様によって改善された。

【添付書類】 事業内容、事業の成果に関する写真



：まぶしの消毒

ダンボール製のまぶしを消毒するときには、火を焚きつけて、まぶしの表面に付いた毛羽を焼切るようにして行う。これによってまぶしに付着しているウイルスを焼殺することが可能となる。消毒後のまぶしは、湿気が少なく通風の良いところを選んで、管理をするように指導している。



：バゴ市農家による回転まぶしの利用

バゴ市イリハン地区のモデル農家に 60 組の回転まぶしを配布した。一回の掃き立て箱数の多い大規模養蚕農家にとって、回転まぶしを使えるかどうかは養蚕の規模を決める決定的な要因となる。今回配布したまぶし以外に以前から所有しているものと合わせて、最大掃き立て箱数(1 回当たり)が 10 箱以上になったことで更なる増産を目指している。



：繭の収穫

回転まぶしを使用して繭を生産するようになったことで、以前まで使用していた灌木など（画像内で女性の持っている枝と繭）との繭の差が明らかとなった。回転まぶしを利用して生産された繭は形が揃っており、他のまぶしと比べて繭の形質が良い。

【添付書類】 事業内容、事業の成果に関する写真



：機織り機の部品を確認

日本から送られてきたコンテナに、分解された機織り機3台分の部品がコンパされていた。地元の大工の協力を得て組み立てを行い、オイスカバゴ研修センター内にある機織センターへ設置した。



：機織り機を使用

早速、機織り機を使用して、絹織物の製作が行われている。日本人の専門家に指導を受けた担当スタッフが、主に絹生地を中心に機織りを行っている。



：同型回転まぶしの開発

バゴ市カロマンガン地区の養蚕農家では、回転まぶしを真似して、厚紙ダンボールを利用したまぶしの製作を行っている。課題点は、フィリピン産のダンボールには耐水性や排湿性の点で適当なものがないために、蚕が繭を作っている最中に、まぶしが極端に変形することによって、繭の収穫作業が困難となることである。